

気仙沼支援への経緯

平成 22 年 3 月 11 日、過去に例をみないほどの地震による災害、津波被害のニュースを受け、隣県である山形県民、寒河江市民として何かしなければとの思いを強く持ち、活動を始めることとした。

寒河江市は岩手、宮城、福島 の 3 県に友好都市を持たないため、どこへどのような支援をすべきか、手探り状態からのスタートであった。そんな中、寒河江ライオンズクラブが姉妹関係を持つ気仙沼ライオンズクラブにより災害ボランティアセンターや行政等を紹介してもらい、行政の要請からなかなか支援の届かない本吉地区(旧本吉町)へ赴くこととなる。

◆支援物資運搬、炊き出し等

3 月 27 日 日曜日 に始まり、5 月 22 日 日曜日 まで計 5 回 7 ヶ所へ支援物資運搬のほか、いも煮、甘酒、生野菜サラダ、玉こんにゃく、ポップコーンや足湯の提供等を行った。寒河江市民にボランティアの呼びかけを行うなどし、総勢 100 名をゆうに超す寒河江市民の協力を得た。



◆寒河江一泊ホームステイ事業

6 月 18 日～19 日、7 月 2 日～3 日の 2 回にわたり気仙沼の避難所で窮屈な生活を強いられている方々を寒河江市に招待した。花咲かフェア、慈恩寺拝観、温泉やさくらんぼ狩りなどを楽しみながら、寒河江市民のお宅にホームステイをし、交流を深めていただくとの企画である。気仙沼市からは延べ 70 人の参加があり、寒河江市では 25 の家庭がホームス

テイ先としてご協力くださった。復興へはまだまだ時間がかかると思うが、ひと時の休息となってくれていれはうれしく思う。

◆新しい公共事業

気仙沼復興に対する思いを強めたグラウンドワーク寒河江では、山形県が委託を受けている内閣府の新しい公共支援事業『新しい



公共の場づくりのためのモデル事業』へ応募のため、行政や他の NPO 団体と「復興のための新しい公共の場づくり協議会」を立ち上げた。企画提案書を提出後、プレゼンテーションを経て採択され、本格的に気仙沼市に拠点づくりを始めたが、当初建設する予定の気仙沼事務所は、新しい公共の補助金の性質上、資産を持つことが許されず、レンタルで建物を建てることになった。その他、50,000 円以下のものは消耗品とし、9 月 4 日の開所式に向け準備が進められた。